

No.708 MONTHLY

THE NIPPON

Dental Review

2001年10月11日発行(毎月1回11日発行)
Vol.61(10)/通刊第708号(再刊第666号)
昭和21年6月27日第三種郵便物認可 ISSN 0289-0909

10 日本歯科評論
2001. OCTOBER

特集

歯周治療を組み込んだ 総合治療計画をどうたてるか

- 歯周外科治療の手順
— 歯周外科手術の見極めと基本テクニック / 申 基苗
- 歯周補綴における総合診断, 治療計画のたて方
— 治療のゴールを見据えて / 南 清和
- 歯周疾患を伴う患者に対する
予知性のある矯正治療 / 渡辺隆史
- 歯周治療とSPT
— 長期的な歯周組織の維持と管理 / 藤橋 弘ほか

Point of View

- <資料> 21世紀歯科医療検討会議中間報告書
歯科医師の供給について



「マルタ島」 栃木県宇都宮市 / 軽部 積

特集

歯周治療を組み込んだ 総合治療計画をどうたてるか

ジーシー市民フォーラム「健康と美をつくる」を聴いて

なかはらえつ お
中原悦夫

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-2-8
寿豊ビル4F 協立歯科

得るものが多かったフォーラム

「トップに会えば、その会社、社員、そして商品が見えてくる。なぜなら、その人の感性は個人の中で一貫しているから……」

株式会社ジーシー社長・中尾 眞氏は、私がかつてお会いしてきた企業トップの中でホスピタリティーを具えた、最も印象に残ったお一人である。中尾氏の名刺には“顧客担当アソシエイト”と書かれていて、社長自ら現場の声を聴く姿勢が見えてくる。今回の一般市民へ一歩踏み込んだ企画は、歯科界全体においても大きな一歩であり、評価すべき点が非常に多い。

創業80周年を迎え、その記念事業として企画されたジーシー市民フォーラムは、歯科関連メーカーが単独で主催した日本で最初の“市民フォーラム”でもある。会場には約1000人の一般市民および医療関係者が集まり、予想どおり大盛況であった。

“歯科健康フォーラム”と題して、メークアップアーティストのはらだ 玄氏、登山家の田部井淳子氏、そして落語家の三遊亭歌之介氏が、それぞれ口元の健康について語り、最後に歯科医師の松尾 通氏が総括して、口元の美とスマイルについて一般市民にわかりやすく講演された。さらに、食通・ワイン通としても知られる俳優の辰巳琢郎氏がゲストコメン



テーターとして登場し、会場を一気に盛り上げた。

歯科医が一方的に語るフォーラムと違って、歯科以外の方々からそれぞれの立場での歯科の健康についてのコメントを聴くことができたので、歯科医師として、また一市民としても、気づきと学びが自然な形で醸し出され、得るものが非常に多いフォーラムであった。

パブリック・エデュケーション

近代歯科医療は歯科器材メーカーと歯科医師の二人三脚で発展してきたが、メーカーは企業化していくにつれ直接ユーザーである歯科医師だけを見るのが多く、真のユーザーである“患者になりうる”一般市民に目を向けることが少なかった。そのため需給バランスの変化に順応しきれず、歯科業界も閉塞状態に陥ってしまっている。

米国でも80年代は同様の状態にあったが、真のマーケットにいち早く気づき、メーカーと歯科医師が協力してそれぞれの利益の社会的還元と位置付けて歯科界にマーケティング



松尾 通氏の総括に辰巳コメンテーターが適切な言葉で応じ場内を鎮かせる。

演者の顔が大型スクリーンに映し出されて親近感も倍増。

概念を取り入れた。すなわち、こうした市民フォーラムをはじめ、ケーブルテレビ等のメディアを通じてのパブリック・エデュケーションに力を入れてきたが、このようにして台頭させてきたのが米国の審美歯科である。技術導入だけで行われている日本の審美歯科とは、根本的にマーケットが違っている。さらに米国では、全専門科目において患者のニーズを視野においた包括的歯科医療の時代を迎えるに至っている。

今回の“市民フォーラム”は一般市民に対して行われた「組織的なマーケティング」とも言うべき広報活動であり、こうした活動は今後の歯科医療を変え、新たな歯科器材を開発する方向に導き、新しいデンタルマーケットを生むに至るであろう。さらに、メーカーと歯科医師との新たな“共創的職業環境”が出来上がり、真のマーケットである一般市民への“職業奉仕”につながると思われる。こうした市民フォーラムの今後の活性化に期待して、ジーシー市民フォーラムの印象記としたい。